

2026 年10月26 日
プレスリリース No.020-26

「昭和」という時代―「生きる」とはいかなることか― 静岡文化芸術大学シンポジウム開催について

静岡文化芸術大学では、シンポジウム「昭和」という時代―「生きる」とはいかなることか―を開催します。
「生きる」とはいかなることか。戦争、敗戦後の価値観の転換、高度経済成長など、人びとが大きな変化の中を生き
た「昭和」という時代を振り返りながら、人が「生きる」ということの意味を考えるシンポジウムです。
歴史・文学・芸術・教育・産業の視点から「昭和」を再検討し、人が「生きる」とはいかなることなのかを世代を超え
て考える機会とします。

■開催概要

「昭和」という時代―「生きる」とはいかなることか―

【日 時】 2026 年11月 14 日(土)

12 時 30 分開場・受付開始／13 時開始(17 時終了予定)

【会 場】 静岡文化芸術大学 南278大講義室(浜松市中央区中央 2-1-1)

【対 象】 一般(どなたでもご参加いただけます。)

【参加費】 無料

【申 込】 事前申込制

11 月 13 日(金)までに、チラシの二次元コードまたは大学公式 web サイト掲載の申込フォームから
お申し込みください。

(注)上限人数に達した場合、締切より早く申込の受付を終了する場合があります。

【主 催】 静岡文化芸術大学 地域連携センター

【プログラム】

第 1 部 戦争と昭和

「学鷲の戦後小説―若き『近代文学』派・原通久の文学とその背景―」

宮崎千穂(国際文化学科 准教授)

「いかに『神』に問いかけるか―戦後日本演劇に描かれた天皇への問いかけ―」

稲山玲(芸術文化学科 准教授)

(裏面もご覧ください。)

<本リリースに関する問い合わせ>

静岡文化芸術大学 研究・連携推進室

Tel. 053-457-6105 / Fax. 053-457-6123

Email. chiiki@suac.ac.jp

公式 Web サイト



「一人の海軍整備兵の戦争—大村金次の手紙から—」

田平寛太(国際文化学科 2 年)

「第二次世界大戦をめぐる日・フィリピン歴史教育の比較—戦争の記憶と歴史認識に着目して—」

尾杉はな(国際文化学科 2 年)

第 2 部 昭和の産業と文化

「捕ることと撮ること—戦後捕鯨(船団)の象徴性をめぐって—」

加藤 裕治(文化政策学科 教授)

「貨物列車が支えた風景—昭和という時代の物流とくらしの変容—」

馬淵斎(国際文化学科 2 年)

「静岡における茶教育の歴史と今後の展望」

中村優奈(文化政策学部 国際文化学科 2 年)

■連携企画 展示「みんなの電話」(静岡文化芸術大学図書館・情報センター)

11 月 30 日(月)まで、図書館にて昭和の電話をご覧いただけます。

図書館・情報センターの利用者カードをお持ちでない方は、入館ゲートのインターホンでお知らせください。カウンターで所定の様式に必要事項を記入していただければ、館内の展示をご覧いただけます。



<本リリースに関する問い合わせ>

静岡文化芸術大学 研究・連携推進室

Tel. 053-457-6105 / Fax. 053-457-6123

Email. chiiki@suac.ac.jp

公式 Web サイト

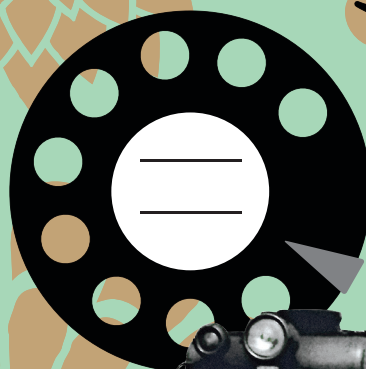


いかなることか

「生きる」とは

シンポジウム

時代



2026.11.14 [SAT]

13:00~17:00 (開場・受付開始 12:30)

静岡文化芸術大学 南278大講義室 入場無料

第1部 戦争と昭和 第2部 昭和の産業と文化

焼跡に立っていたいけな子供達 戦災直後の熊谷市 / 埼玉県立図書館デジタルライブラリーより一部改変

[主催] 静岡文化芸術大学 地域連携センター [後援] 浜松市



「生きる」とはいかなることか。

いつの時代も、人は、自分自身に、そして、社会に向けて、この問いを投げかけてきました。今日もまた例外ではなく、不況の中で、不安定な国際情勢の中で、私たちは「生きる」ということについて考えています。「昭和」という時代、人びとは、戦争中には生と死についての問いを鋭く突き付けられ、敗戦後には価値観の大きな転換、さらには高度経済成長をも経験しました。本シンポジウムでは、このような激動の時代ともいえる「昭和」について、歴史・文学・芸術・教育・産業の観点から再検討してみたいと思います。「生きる」ということは、すべての人にとっての問題です。世代を超えて考えることが大切でしょう。本シンポジウムには、静岡文化芸術大学の教員のみならず、学生たちも登壇いたします。会場にお越しの皆様におかれましては、「昭和」という時代がいかなる時代であったのかを改めて振り返り、人が「生きる」ということはいかなることなのかを考える機会にしたいだけでしたら幸いです。

産業

教育

芸術

文学

歴史



PROGRAM

13:00 開会の辞

第1部 戦争と昭和

[講演]

13:10 ~ 13:50 学鷲の戦後小説

—若き『近代文学』派・原通久の文学とその背景—

宮崎千穂 (国際文化学科准教授)

13:50 ~ 14:30 いかに「神」に問いかけるか

—戦後日本演劇に描かれた天皇への問いかけ—

稲山 玲 (芸術文化学科准教授)

[学生発表]

14:40 ~ 15:00 一人の海軍整備兵の戦争 —大村金次の手紙から—

田平寛太 (国際文化学科2年)

15:00 ~ 15:20 第二次世界大戦をめぐる日・フィリピン

歴史教育の比較 —戦争の記憶と歴史認識に着目して—

尾杉はな (国際文化学科2年)

第2部 昭和の産業と文化

[講演]

15:30 ~ 16:10 捕ることと撮ること

—戦後捕鯨 (船団) の象徴性をめぐって—

加藤裕治 (文化政策学科教授)

[学生発表]

16:10 ~ 16:30 貨物列車が支えた風景

—昭和という時代の物流とくらしの変容—

馬淵 斎 (国際文化学科2年)

16:30 ~ 16:50 静岡における茶教育の歴史と今後の展望

中村優奈 (国際文化学科2年)

16:50 閉会の辞

2026年11月14日(土) 13:00-17:00 (開場・受付開始12:30)

静岡文化芸術大学 南278大講義室

JR浜松駅より徒歩15分／遠州鉄道「遠州病院駅」より徒歩8分

遠鉄バス浜松駅北口バスターミナル10番のりば バス停「文化芸術大学」下車

※本学には駐車場がありませんので、公共の交通機関をご利用ください。



◀ お申し込みはこちらから / 定員180名 (先着順)

入場無料

※録画・録音・写真撮影は禁止とさせていただきます。

